
猫の恩返し

琉珂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫の恩返し

【Nコード】

N5117A

【作者名】

琉珂

【あらすじ】

「猫の恩返し」に出てくるバロンとムタの出会いです。

石灰焼き人形として生まれたオレはひとりで猫の事務所を開いていた。

今日もいつものように紅茶を煎れていると、扉の外に気配を感じた。依頼人だろうか……？

いや、依頼人にしては気配が弱々しい。

大方人間の子供にいじめられた野良猫が迷い込んできたのだろう。手当てくらいはしてやれるが。

そう思っただけはそつと扉を開けた。

「……………よお」

そこにいたのは自分の何倍もある、片耳だけが茶色いキズだらけのデブ猫。

息も荒く、辛そうに石畳の上に横たわっている。

もっと小さな猫を想像していたオレはつい拍子抜けしてしまった。

「お前が噂のバロンか？」

その猫は自分のことを知っているらしく、目つきの悪い細い瞳がオレを見る。

この顔、どこか見覚えがある。

「ああ、そうだが」

頷くと、猫はだるそうに体を起こして近づいて来た。

「依頼人か？」

オレはその顔をどこで見たか思い出そうとしながら尋ねた。
猫ははつと鼻で笑う。

「そう見えるかよ」

「……見えないな」

その猫にとっては小さすぎる事務所の扉を全開に開いて、オレは中を指差した。

「あ？」

「手当てをして欲しいのだろう？ 入れ」

「……………」

猫は一瞬黙ったが、すぐに重たい体をのそのそと動かして事務所に
入って行く。

オレもその後に続いた。扉を閉めて振り返ると、その猫は勧めるま
でもなく勝手に椅子に腰を下ろしていた。

みしみしと音を出す椅子。

オレは溜め息をついた。

「全く、よくここまでひどいケガを負えたものだな」

「うるせえな」

こっちにもいろいろあるんだよ。

血の滲む傷口を猫はぺろりと舐めた。

「この傷、人間の子供にやられたものじゃないだろう」

オレはアンティークな戸棚からコットンに消毒液、包帯を取り出した。人間の子供にいじめられた猫は、大抵石を投げられて擦り傷が多い。

だが、その猫の傷は刃物で切られたような傷だった。

「猫の国から来たのか？」

はたまた逃げてきたのか。

見上げると、黒い小さな瞳がこちらをちろりと睨んだ。

悪人面で傷だらけのその猫はまるで犯罪者のよう。

猫の国からの逃亡者？

それはつまりお尋ね者。

その瞬間、胸のつかえが取れるのを感じた。

「お前、確か指名手配されてるな」

そうだ、この顔はこの前の新聞で見た顔だ。

「……だっ たらなんだよ」

ぼそり。

血を這うように低い声。

「猫の国に突き出すか？」

猫はわざと挑発的な言い方してくる。

今度はオレがはつと鼻で笑った。

「誰がそんなに面倒臭いことをするか」

オレは猫の傷に消毒液を勢い良くぶっかけた。

「つてえ!!」

「我慢しろ」

暴れる猫を尻目に、オレは傷口の血を拭って包帯を巻いた。

「てめー治療するならもう少し優しくしゃがれ!」

「お前が何だろうとオレには関係ない」

他の傷にも消毒液をかける。

「手当てを望んでこの事務所を訪れたのなら、お前は依頼人だ」

包帯が足りなくなつてまた戸棚の方に戻った。

「……なあ」

ふいに声をかけられて振り返った。

「何だ?」

「俺様をここで雇う気ねえか?」

「……ふっ」

頼みごとの割に俺様か。
どこまでも態度のでかい猫だ。
しかし、それはそれで面白い。

「おい、お前。名は？」

「……ムタ」

例えそれが本名でなくともいいだろう。

「バロンだ」

改めて、よろしく。
互いに手を握り合った。

本日より、猫の事務所。
従業員＋1名。

（後書き）

バロンの性格が違っていたらすみません。読んで頂いて大変ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5117a/>

猫の恩返し

2010年10月10日04時42分発行